

21世紀の新しい災害援助協定の締結

内野市長「宮城となると「仙台」や「松島」があります。私たちは普段から「泊まるなら白石市で、次の日はバスなどですら方面に向かうことがお勧めですよ」と言っています。そして、市民が白石市に泊まる場合は、交流事業という形で宿泊費の補助をしています。登別市へのパッケージツアーがあればもっと宣伝ができるのに」

小笠原市長「昨年は、登別温泉に年間300万人の観光客が訪れました。現在では、少しずつですが外国人の利用者が増え、宿泊者数では21万人と年々増えています。中国本土へも足を踏み入れて営業を開始します。しかしながら、一番重要なのは、北海道内の観光客はもとより、道外の方々にもう一度北海道に、登別に来てほしいという方針をきっちり作って、いろいろな地域に営業展開をしていくという時代になっていかなければならないと思っています。そうした中で、白石市や海老名市との交流をつくらせていただいているので、これをひとつの

観光圏の認定によるパッケージツアーの販売

風間市長「北海道も関東も東北も、「地震」という危険と隣り合わせなのではないでしょうか。白石市は登別市と個別に災害時相互援助協定を結んでいます。海老名市とも災害時相互援助協定を結んでいます。この3人が集まって、平成7年に結んだこの協定を一度見直して、3者でひとつの災害協定ができると市民に安心感をいっばい与えられると思うんです」

内野市長「そうですね。緊急時はお互いに助け合わなければなりません。私たちが常に言っていることなんです。災害が発生したときに寝たきりの方や身障者、小さな子どもたちの生活環境の確保が問題となります。そこで、一時、白石市に復興するまで疎開してもらおうと白石市との協定では明記しているんですよ。バス1台借り上げれば、そういう方たちを白石市まで乗せてきて、しばらくの間は温泉やスパ施設やレストランなどで生活してもらうと。もちろん、基本的には実費はお支払いをして。そして、ある程度復興したら順番に帰ってきてもらうという形も良い



▲てい談は、終始和やかに進みました

白石城をバックに、3人でガッチリと握手！



風間市長「「昨年、戦国武将ブームで白石市を訪れる若い女性が多くなり、東京から白石市までの新幹線往復と市内のホテルの宿泊をパッケージしたツアーを

小笠原市長「21世紀の新しい災害協定の形として、いわゆる「親戚市民」をつくらせようか。普段から交流していれば、気になるんじゃないですか。何かあったとき、普段から「あの人がどうしているかな？」と。そういう関係の中で災害協定を結ぶというのはいかがでしょう」

風間市長の提案で、3市での新しい災害援助協定締結への作業が始まります。まずは本市が中心となり協定案を作り、早期の協定締結を目指すことになりました。

これから！

内野市長「海老名市と白石市は、姉妹都市になる前に友好都市として3年ありました。そのきっかけはいろいろあると思いますが、私が思うのは、あまり背伸びをしないで、できることからやっていくことが大事だと思います。平成23年に市制40周年の節目を迎えます。もっとと交流を活性化させていきたいと考えています」

小笠原市長「海老名市とは、白石市との物産交流で出会い良い関係を築くことができました。これから災害援助協定を締



登別温泉の温泉街。世界的にも珍しい多種類の温泉がわき出していることで、温泉のデパートとも言われています(写真提供：登別市)

旅行は、交通費と宿泊費、観光費用などを組み合わせて旅行代理店が企画するパッケージツアーを利用するのが、手取り早くそして価格も手ごろです。ただし、パッケージツアーは行き先が決まっています。この登別市の取り組みは、国際競争力の高い魅力ある観光地づくりを行い、地域の幅広い産業の活性化や、交流人口の拡大による地域の発展が期待されるものであり、3市の交流事業を進める中で力強いものとなるのではないのでしょうか。

※2 観光圏整備法
正式には、「観光圏の整備による観光旅客の来訪及び滞在の促進に関する法律」といい、平成20年7月23日に施行された。観光圏とは、自然、歴史、文化などで密接な関係のある観光地を一体とした区域。その観光圏同士が連携して2泊3日以上滞る型観光に対応できるように、観光地の魅力を高めようとする区域を指す。

区域内の宿泊業者には、旅行業法の特例措置として、観光圏内を範囲とする宿泊旅行商品を取り扱う旅行業者代理業が認められる。一定の研修などの条件を満たせば、旅館・ホテルのフロントで着地型旅行の受け付けなども可能になる。

結してより一層仲良くさせていきたいと思います。まずは、お互いの広報紙を交換するところから始めて、これから交流を進めていきたいと思います」

風間市長「これからの人的交流、物産交流そして政策交流、職員間の交流なども含めて、発展的に新たな姉妹都市のトライアングルをつくっていかねばと思います。今後とも機会があるごとに3市で情報交換しながら、3市がともに発展していけるような、前向きな建設的な話をしたい関係を築いていきたいと思いますので、これからもどうぞよろしくお願います」

最後に、3人の市長からこれからの交流への思いをお話しいただぎ、約1時間のてい談は終了しました。

今回のてい談では、本市の姉妹都市である登別市と海老名市の仲を取り持ち、3つの自治体同士が交流を深めることで、まちづくりを競い合い、まちなちのしさを分かち合い、そしてお互いに困ったときには助け合うことを築くことができたと思います。姉妹都市としての交流の歴史とは別に、本市が取り持つ縁の交流の歴史が、今回の3市長てい談からスタートします！



2009.11.7・8 第31回白石市農業祭・物産展(登別市)

2009.8.21・22・23 海老名・白石姉妹都市親善少年野球交流大会

2009.8.1・2・3 海老名・白石スポーツ交流大会

2009.7.25・26 登別・白石姉妹都市少年スポーツ交流

2009.7.1・2 えびなの森創造事業 プレ植樹式

2009.4.16・17 海老名市白石市訪問バスツアー